

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	宇都宮大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ウツノミヤダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	課題発見・解決型インターンシップB
	学部・研究科等名	基盤教育
	担当教職員名・役職	熊谷朋子 准教授・キャリア教育・就職支援センター副センター長
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	25
	受入企業等数	5
	受入企業等名	株式会社FM栃木、株式会社グリーンデイズ、株式会社栃木銀行、宇都宮市役所、栃木県庁
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業が抱える課題に対して、学生がチームとなり、業界・企業への理解、課題の分析、解決、改善に向けた具体的な提案を行っていくインターンシップ。①課題発見・解決型インターンシップの実施によって学生の価値創造の経験を高め、職業人として必要な基本的姿勢・考え方を身につける。②社会・組織・仕事を捉え直し、自らの職業観を醸成し、キャリア形成の一助とする。③受入組織に対し、学生の新しい価値を創造していく熱意と、具体的な提案と実践を提供することで貢献する。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		1年次～4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		宇都宮大学基盤教育科目履修規程に定める基礎キャリア科目の自由科目
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	マナー講習の実施、オリエンテーションの実施
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学内発表会及び意見交換会による振り返りを実施・各チームの実施内容発表及び質疑応答(インターンシップ体験の感想、インターンシップの改善点など)・実施教員、コーディネーター、担当教員と意見交換(プログラム評価、大学への要望など)

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実施責任者、コーディネーター、担当教員が参加学生をサポートし、全体の進捗状況の確認・調整、学生からの問いや疑問に対する指導・助言をおこなっている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	①自己評価表(学生)…自己の能力アップ度を測定する。インターンシップ前と後に記入し、成長度合いを測定。②課題解決に向けた評価表(学生)…チーム活動の状況や課題解決、企業理解等を把握する。インターンシップ前と後に記入し、成長度合いを測定。③企業フィードバックシート(企業)…企業から見た各人の能力アップを評価する。インターンシップ前と後に記入し、成長度合いを測定。④企業インターンシップ評価シート(企業)…インターンシップ終了後、チーム・成果・プログラムについて評価。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	チームにより、実施期間13日から32日(うちインターンシップ実施期間11日から30日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生は就業体験を経て、チームとしての企業から提案された課題に対して、解決への活動を実施
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業フィードバックシート(企業)…企業から見た各人の能力アップを評価する。インターンシップ前と後に記入し、成長度合いを測定。企業インターンシップ評価シート(企業)…インターンシップ終了後、チーム・成果・プログラムについて評価。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	宇都宮大学
	担当部署名	キャリア教育・就職支援センター
	担当者役職名	キャリア教育・就職支援室長
	担当者氏名	キャリア教育・就職支援室キャリア教育係長
	電話番号	028-649-5106
	メールアドレス	syusyoku@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp